

<p>太田委員長</p>	<p>それでは定刻がまいりましたので、ただいまから平成22年第9回新居浜市教育委員会定例会を開催いたします。</p> <p>本日の会議録署名委員は、三木委員さん、小野委員さんをお願いいたします。会期は本日限りといたします。平成22年第8回定例会会議録の承認につきましては、小野委員さんと、私、太田が署名をいたしております。</p> <p>それでは、教育長の一般報告をお願いします。</p>
<p>阿部教育長</p>	<p>それでは一般報告を行います。資料の2ページをご覧ください。</p> <p>8月の主な行事についてご報告いたします。</p> <p>5日から8日 こども夢未来基金事業「新居浜こども環境キャンプ」が別子山地区と東平地区において児童・生徒39名が参加し、鉱物採集及び天体観測として愛媛大学高橋 治郎先生、佐野 栄先生、昆虫採集として愛媛県総合科学博物館大西 剛学芸員さん、植物観察として神野 祐子先生、企業の環境保全活動については住友林業フォレストサービス、旧別子山地区登山学習に新居浜南高等学校情報科学部のみなさん、全体支援として、別子山地区のみなさん方、松山東雲女子大学生2名、社会教育課職員並びに公民館主事・主事補さんらの多くの方々のご支援を受け、当初の目的を達成するとともに事故もなく終えることができました。参加した児童・生徒にとって、学校生活の中では得ることのできない、貴重な体験ができたと思います。大変ご苦労様でした。なお、後ほど、児童・生徒の感想文、または、彼ら自身が作成した資料集を提示いたしますのでご覧ください。</p> <p>6日 第1回特別支援教育研修会が「自閉症スペクトラムの理解を深めるとともに、支援を必要とする幼児、児童・生徒に対し、適切な支援につなぐことができるようにする」ことを目的に、愛媛大学教授特別支援教育士スーパーバイザー花熊 暁先生の「発達障害の特性理解と支援の在り方を見直す～小・中学校のステージを分けて～」と題しての講演会が行われました。</p> <p>別子銅山記念図書館多目的ホールにおいて「夏の夜のちょっとこわいお話し会」と題しての読み聞かせや語りの会がもたれました。</p> <p>7日 イオン・セントラルコートにおいて新居浜ユネスコ協会による、音によって「平和への祈りと願い」を表現し、「平和の文化」を地域に広めようという目的で、「響け、ピース 平和の鐘を鳴らそう」の催しがありました。</p> <p>8日 あすなろ教室による進路相談会が今治精華高等学校、今治明德高等学校、県立新居浜西高等学校、学校法人河原学園未来高等学校の協力を得て開催されました。保護者・中学教師・生徒19名が参加し、学校の授業内容や行事、支援体制等について説明を受けていました。</p>

11日 新居浜市中学校スポーツトップアスリート事業が開催されました。二回目となり参加生徒も慣れ、走の基本や動きづくり、食事の管理について学びました。

別子銅山記念図書館で「夏休み子ども探検隊」が開催され、小学生の図書館見学や木の工作教室を楽しみました。

7月31日に開催した郷土美術館の企画展「泳げ！ゲンゴロウ～北添伸夫 古里自然写真展～」が閉館いたしました。期間中の入館者は大人997人、子供377人でした。これまでの企画とは異なりゲンゴロウを中心としての写真展ということで子どもたちの鑑賞者が多くみられました。また、普及講座として開催されました「カメラで遊ぼう」講座には子供と大人で28名の参加、写真の読み聞かせ講座には子供と大人で32名の参加がありました。

12日 第48回四国中学校総合体育大会報告会が開催され、バドミントン女子団体 中萩中優勝、男子ダブルス 北岡・鈴木組準優勝、女子ダブルス 伊野・曾我部組準優勝、卓球男子団体 泉川中優勝、水泳200メートル個人メドレー3位 南中高橋 万由花さん、陸上競技女子砲丸投4位 川東中横井 優奈さんらが全国中学校総合体育大会に出場することになり誇らしく報告してくれました。全国大会ではバドミントン団体の中萩中女子がベスト8入りを果たしてくれました。

17日 高知県安芸市で開催されました、第3回全国高等学校商い選手権大会（商い甲子園）で初優勝（岩崎 弥太郎賞）に輝いた県立新居浜商業高等学校の選手と学校関係者が市長に報告に来られました。新居浜市の特産である「白いも」を使ったスイーツが人気を集めたそうです。

18日 第4回小・中学校教頭研修会が「新学習指導要領への円滑な移行と学習指導の改善を進めるために、教頭としてどのように取り組んでいるか。」「いじめや不登校を生まない楽しい学校づくりのために教頭としてどのように取り組んでいるか。」のテーマで研究協議が行われました。

平成22年度第1回社会教育委員会議が開催されました。平成22年度社会教育関係事業予算についての説明の後、成人式の在り方等について意見交換が行われました。

19日 誇りある郷土「新居浜発見物語」展実行委員会による一公民館を中心とした地域づくり一誇りある郷土「新居浜発見物語」展が開催され、参観者は、公民館を中心とした地域紹介を熱心に読まれていました。また、各公民館から特色ある物産・資料も展示され興味深く鑑賞されていました。期間中の参観者数は3017名でした。多くの市民の方々が自分の住んでいる校区の誇りを再確認されたのではないかと思います。

CAPプログラムの教職員研修として、大阪教育大学学校危機管理

メンタルサポートセンターの野坂 祐子先生による「学校危機と心のケア・～危機の予防と回復のためにできること～」の講演会が開催されました。附属池田小学校での傷害事件による児童へのサポートの体験から教職員としての在り方について研修することができました。

22日 2010サマーフェスティバルINマイントピア別子が開催され幼児を連れた家族が多数集まり、マイントピア別子の芝生広場は暑い日差しに負けない子どもたちの歓声でいっぱいでした。

泉川校区で「ふるさとづくり星原市」として相撲大会やもち投げ等、趣向を生かしたイベントが催されました。

子ども会議で提案されました第6回市民音楽祭「あなたを見たい！応援したい！」が市民文化センター大ホールで行われ、中高校生を中心に若さあふれるパフォーマンスを披露してくれました。

24日 東予地方局主催の「小学生料理コンクール」及び「料理教室」が開催されました。コンクールでは書類選考を通過した小学生5チーム、宮西小、金子小、高津小、神郷小、中萩小がオリジナリティーあふれる調理実技を競ってくれました。本職も舌を巻くような包丁さばきや独創的な料理をてきぱきとこなしていく姿を見ていると、児童の料理能力、技術の高さに驚かせられました。審査の結果、「愛媛産には愛があるで賞」には神郷小のHAPPYクッキングガールズ、「地産地消費」には、宮西小ニコニコ・ピース、「食育賞」には、中萩小料理大好き仲よしチーム、「給食サポーター賞」には、唯一男子3人で奮闘した金子小じゃがじゃがチーム、「あかりちゃんスマイル賞」には、高津小パティシエールが選ばれました。今後とも料理を作るといふことを通して、食育や地産地消の重要性を学んでほしいと思います。

25日 えひめ防災フォーラム2010「行政・大学連携による防災力の向上を目指して」のフォーラムに参加いたしました。平成16年の災害の状況が思い出されるとともに、今後の取組について検証していく必要性を思い起こされました。

26日 第2回小・中学校教務主任研修会が開催されました。「いじめや不登校を生まない楽しい学校づくりのために、教務主任としてどのように取り組んでいるか。」・「学力向上を図るための学習指導改善に、教務主任としてどのように取り組んでいるか。」のテーマで研究協議が行われました。

27日 耐震工事が行われている学校へ、児童・生徒の安全確保の状況の把握のため、視察を行いました。

28日 平成22年度第2回特別支援教育研修会が「気がかりな子どもの支援の実際(特別な支援)～幼児の困り感を理解するために～」との演題で、千葉大学教授 富田 久枝先生の講演会が開催されました。

29日 第54回ヨシイバレエ発表会が盛大に開催されました。幼児のあどけなく可愛いものから成人の充実した技術と可憐な表現を74名のヨシイバレエ芸術学園の園生が表現してくれました。

30日 天皇賜杯第65回全日本軟式野球大会に秋山工業倶楽部が県大会で優勝し、県代表として出場することになり、新居浜市軟式野球協会役員、秋山 周三総監督、加藤 博士主将、クラブの関係者等が市長に表敬訪問に来られました。

30日～31日 平成22年度前期発達支援スキルアップ連続講座が「特性理解と支援」との演題で愛媛大学准教授 吉松 靖文先生の講演会が開催されました。発達障がいのある子どもたちを支援する者が、的確な実態把握の方法や具体的な支援の在り方の理解を深め、その専門性と実践力を高めるために開催いたしました。

31日 平成22年度新居浜市夢広がる学校づくり事業のプレゼンテーションが行われました。

新居浜東雲市民プールの今年度の開園が終了しました。6月20日からの利用者は55,980人でした。昨年度より約8,300人の増加でした。猛暑続きの日々が続いたことの証明にもなると思います。また、10円プールとしての愛着が子どもだけでなく、大人にもあるのではないかと思います。

9月1日 公立幼稚園・小中学校で第2学期が開始されました。その他、9月の主な行事予定について報告を申し上げます。

3日 臨時校長会を開催し、4月に実施した全国学力・学習調査結果報告と新居浜市の対応について説明いたします。

4日 公民館活動リーダー（志縁人）養成塾

5日 市P連レクバレー大会

第3回中学校スポーツトップアスリート事業

7日 第4回新居浜市議会定例会本会議

12日 別子小中学校運動会

14日から16日 新居浜市議会定例会本会議一般質問

19日 中学校運動会（別子中除く）

21日 福祉教育委員会

24日 新居浜市議会定例会本会議・委員長報告

新居浜市幼保小連携の在り方検討委員会

25日 中学生海外派遣事業第5回事前研修会

26日 小学校運動会（神郷小・別子小除く）

第4回中学校スポーツトップアスリート事業

28日 市内統一中学校「学校へいこうデイ（日）」

30日 英語スピーチコンテスト

以上で、一般報告を終わります。

太田委員長	<p>ありがとうございました。一般報告について何かご質問ありませんか。よろしいですか。それでは、専決処分の報告に入ります。本日、報告第9号、第10号がございしますが、報告第9号は人事案件でございしますので、新居浜市教育委員会会議規則第37条の規定により、この会の最後に非公開で報告させていただきたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p>
委員一同	はい。
太田委員長	<p>それでは、第9号は後ほど報告していただきます。では報告第10号 専決処分の報告について 平成22年度補正予算〔第3号〕の議案送付について、報告をお願いします。</p>
近藤総括次長	<p>はい。報告第10号 専決処分いたしました平成22年度一般会計補正予算〔第3号〕のうち教育委員会関係予算についてご説明いたします。</p> <p>議案書の10ページ、追加資料の1ページをご覧ください。</p> <p><以下、資料に基づき説明></p>
太田委員長	<p>ありがとうございました。ただいまの第10号報告について、何かご意見・ご質問等ございませんか。よろしいですか。</p> <p>それでは議案審議に入りますが、本日、議案第34号 新居浜市立公民館の運営審議会委員の委嘱について追加提出いたします。議案第33号 新居浜市スポーツ振興審議会委員の任命について、及び第34号はいずれも人事案件となりますので、新居浜市教育委員会会議規則第37条の規定により、この会の最後に非公開で審議させていただきたいと思います。ご異議ございませんでしょうか。</p>
委員一同	はい。
太田委員長	それでは、その他に報告がありましたらお願いいたします。
高橋事務局長	<p>先日、教育委員会の取組方針につきましてご質問いただきましたので、各課からご説明させていただきます。該当する課は、学校教育課、発達支援課、学校給食課、社会教育課になります。学校教育課からお願いします。</p>
藤田学校教育課長	<p>はい。それでは、質問に対して回答をしていきたいと思っております。</p> <p>Ⅱ－1 不登校対策のうち(1)－②「新居浜市不登校対策検討委員会」は不登校小・中連携実践指定校と連携し、中1ギャップと小・中</p>

学校の連携について調査研究し、研究内容を各学校に提供するというところで、『実体験のある保護者の意見を聞く場があってもいいと思いますがどうでしょうか。』というご質問についてです。既に不登校児童・生徒の保護者からのアンケート調査の結果を参考資料として話し合いをしたり、各検討委員から集めた保護者の意見や考え方を参考にさせていただいております。実際に不登校対策検討委員会に参加していただき、体験談等を聞かせていただけるような保護者がいるようならば来年度の取組として検討したいと考えております。次に（２）－①基礎・基本の定着を図り、わかる授業の充実と家庭学習と連携して、学力の向上を図るという項目で、『読む、書く、算数は生涯の基礎・基本である。授業改善、実習時間、個別指導のどれもかけ声に終わりがちである。基礎・基本の定着徹底を求めねばならない。厳しさが必要であるがそのような取組になっているか。』というご質問についてです。学力と学習習慣、生活習慣、規範意識等との相関関係は高く、児童・生徒の発達段階に応じた指導・支援をしていくことが肝要であると考えております。今後も、全国学力・学習状況調査等の結果を踏まえて、校長会等におきまして、基本的な学習習慣づくりであります学習規律の徹底・学力を支える「読み・書き・計算」の定着について、家庭での学習の充実、生活習慣の確立についての指導をお願いする予定でございます。

Ⅲ－１生徒指導の充実について（１）－①学校と家庭が連携し、子どもたちに規範意識、基本的な生活習慣を身につけさせるというところでございます。『学校現場では、くつと傘については意識的によく徹底されている。躰・規範意識等は大人の問題である。したがって学校から親や地域に向かってもっと発言すべきと思うがどうか。通学服は便利さか。人間形成か。』というご質問でございます。１点目につきましては、その通りであると思っております。学校現場においてもPTAの会、公民館の会、中学校区のみもり育てる協議会等の席で発言し、訴えてはおりますが、効果が見えるような保護者や地域への指導まではなかなか難しく、指導まで行う時間的余裕もないのが実態でございます。今後は社会教育と連動させ、地域、保護者、大人に向かって発言し、指導まで行う場づくりも必要かと考えております。２点目の通学服については、特に中学校現場においては、「学校は学習の場」という観点から私服はなじまないという考え方が強く、規律、けじめを教えるという意味でも標準服の必要性を強く感じております。高校が標準服を採用しているということもありまして、子どもから大人へと成長する過程のなかで、標準服の着用から、児童・生徒、そして教師が学び、考えることも多くあるような気がいたします。また、保護者の意見のなかには「標準服の便利さ」の意見が多くあります。

Ⅳ－２キャリア教育④職場体験活動の受け皿となる地域の事業所、

商店等のデータベース化を促進するという項目についてです。『受け皿不足で学校は困っていないか。実態はどうか。』というご質問ですが、各学校におきましては、職場体験学習の受け入れ事業所について蓄積しており、データベース化を行っております。中学校11校のうち、実施時期が7月に重なるところが約半分ございまして、重なることによって不都合が生じているという現状でございます。

これまでのご質問は宇野委員さんからでございます。続きまして、三木委員さんのご質問にお答えをしていきます。

Ⅱ－1 不登校対策（1）－④「あゆみ」の設置についての『「あゆみ」ではどのような相談があったのか。』というご質問ですが、相談内容につきましては、一言でいいますと友達のことや部活動での人間関係や家庭環境についての相談です。（2）－③不登校の実態や対応等について全校体制で取り組むという項目についてです。『合計で何日くらい休むと進学等に影響するのか。』というご質問でございます。特に基準はありませんが、高校入試の調査書記入の際に「連続して5日以上欠席については備考欄に理由を書く」ことが高校から依頼されています。また、連続でなくても、年間で10日以上欠席する児童・生徒については配慮が必要と考えております。現在、各小・中学校においては不登校未然防止のために、月2日の欠席者に対して実態把握と適切な支援をお願いしております。次に（2）－⑥の民生委員、主任児童委員等と連携を図り、学校・家庭・地域が一体となり不登校対策に取り組むという項目について『民生委員、主任児童委員がどのような点で児童・生徒に関わることができているのか。』というご質問でございます。家庭訪問を中心に、児童・生徒の実態把握、保護者支援、関係諸機関との連携を行ってまいります。なかには、登校時に子どもを迎えに行き学校へ連れてきてくれたり、家庭に入り、清掃や食事の支度等を行い、保護者と共に子育てをしてくれる方もいらっしゃいます。また、学校との連携を図り、ケース会議に参加もしていただいております。続いて（2）－⑨自主学習支援事業の項目についてです。『実施している学校はどこか。』というご質問ですが、急遽調査いたしましたところ、小学校は、宮西小、金子小、若宮小、神郷小、多喜浜小、泉川小、船木小、中萩小、大生院小、角野小の計10校、中学校は別子中学校を除くすべての学校で行っております。

Ⅱ－2 人権同和教育の取組の（2）－②地区別人権同和教育懇談会の実施についての部分で、『参加人数はどれくらいか。』というご質問についてです。参加人数につきましては、本年度は2,339名です。参考までに昨年度は2,367名、一昨年度は2,177名でございます。

最後に 4 外国人児童・生徒についての取組の②外国人児童・生徒の学校生活に対応するため理解を深めるという項目についてです。

<p>秋本次長</p>	<p>『帰国子女や外国人子女は新居浜に何名いますか。』というご質問でございます。まず、帰国子女についてですが、小学校で3名、中学校で2名の合計5名です。外国人児童・生徒につきましては、小学校で8名、中学校で6名の合計14名です。参考までに国名を挙げますと、フィリピン、インドネシア、韓国、イタリア、ペルー等でございます。</p> <p>学校教育課関係の教職員提案の質問につきましては、秋本次長から説明いたします。</p> <p>V-5教職員提案の募集についてですが、『教職員の提案が一部の教師に偏っている気がする。学校現場での優れた実践活動や研究成績を評価表彰し、このなかから教育行政に取り込み、生かす方が学校現場の活動が生きてくると思うがどうか。』というご質問・ご意見でございます。平成20年度提案件数が2件ございました。1件は北中学校より中学校選択性のPDCAサイクルによる評価と改善について、2件目が同じく北中学校より児童・生徒の本音の把握の実施調査により、児童・生徒理解を図ったうえで指導・援助を行う提案。市内全児童生徒にこの調査を実施した場合、315万円の経費が必要であるというような提案がございました。昨年度平成21年度は、教職員提案制度は未実施でした。今年度は2件の提案件数がありました。1件は船木小・中学校、多喜浜小学校より学校図書館支援推進事業について、平成21年度、22年度文部科学省の指定が終了するにあたって、23年度以降の学校図書館支援員4名の人件費、823万4千円の措置を要望するものでございます。もう1件は、北中学校より現在9月実施の運動会を5月に実施してはどうか。9月は気温が非常に高く秋雨前線の豪雨による問題点がある。小体連、中体連、市教委による検討委員会を設置して検討してはどうかというようなご意見がございました。今、申し上げましたように平成20年度以降提案者が固定化しており、件数も少なくなっております。次年度以降、各学校に送付する教職員提案制度実施についての依頼文にご質問、ご意見の内容を追加して盛り込み募集することを考えております。例えば、各学校での実践内容で、市内各学校でも取り組めば良いと思われる取組はないかというようなことを盛り込んで、提案を募集する。そして、優れた実践活動について評価・表彰というようなご意見もございましたが、教職員の優れた実践活動につきましては、本年度から教科・教科外主任研修会の全体会開催時に表彰する取組を始めました。今後もさらに継続、発展させていきたいと思っております。ちなみに本年度は、角野中学校男子駅伝指導の河村教諭を表彰いたしました。来年度からも発展させていきたいと思っております。以上です。</p>
<p>曾我発達支援課長</p>	<p>それでは、発達支援課からご説明させていただきます。II-3特別</p>

支援教育について三木委員さんからのご質問で（１）－②から「育ちの教室」、「ことばの教室」の充実を図るという部分についてですが、『「育ちの教室」、「ことばの教室」はどんな先生が指導しているか』という内容についてです。「育ちの教室」につきましては、発達支援課職員３名が、ひよこ園の矢野先生、放課後児童クラブピアの平山先生、臨床心理士の樋口先生を相談員として迎え実施をしております。このため、21年度発達支援課職員がひよこ園におきまして5日間の実習を行いました。「ことばの教室」は、教育委員会が雇用しております指導員３名が担当しております。特別支援学校等の各種研修会受講によりこれまで培った経験をもとに対応をいたしております。今後「はげみ園」の言語聴覚士等との連携も必要と考えております。また、今後「育ちの教室」「ことばの教室」が、こども発達支援センターという同一の場所になったことで、連携により対応していくことができると考えております。次に（１）－④の特別支援教育支援員制度の充実を図るという部分で『生活介助員、学校支援員を派遣するのはどのような場合か。』というご質問についてです。生活介助員については幼児、児童・生徒が学校・園生活を送るうえでの安全確保、衣服着脱等の生活支援を行っています。一定の配置基準を設定いたしており、児童・生徒等の障がいの状況や支援学級の状況により、学校や保護者の意見を聞きながら配置しております。学校支援員については、通常学級に在籍する発達障がいの児童の学習・生活支援のため派遣をしています。学校の要望・保護者の同意により、派遣日数等を決定いたしております。なお、生活介助員の配置、学校支援員の派遣につきましては、市の就学指導委員会の判断が必要となっております。続いて（２）－①「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」を作成するという部分の『「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」この二つの目的の違いは何か。』という質問についてです。「個別の教育支援計画」は、障がいのある児童・生徒の一人一人のニーズを正確に把握し、適切に対応していくという考えのもと、長期的視野で乳幼児期から学校卒業後までを通じて一貫して適切な支援を行うことを目的として作成するもので、作成にあたっては児童・生徒等を取り巻く福祉、医療等の関係機関との協力体制のもと、保護者との連携を図り、ともに作成していくものです。新居浜市ではサポートファイル「にっこにこ」を利用することになります。「個別の指導計画」は、学習指導要領に基づき、具体的な指導内容として示されるもので、目標と指導内容・方法を明確にし、作成することになっています。また、各教科等における配慮事項等なども含め作成し、実践を踏まえた評価を行い、指導改善に生かすこととされております。このように「個別の指導計画」と「個別の教育支援計画」は、視野の広さや内容において次元の違う計画となっております。また、「個別の教育支援計画」を踏まえて、より効果的

<p>高橋社会教育課副課長</p>	<p>で適切な「教育指導計画」が作成されるという関係になります。以上でございます。</p> <p>次にV-2人にやさしいまちづくり(1)-②新居浜子ども環境キャンプを実施するという項目で、『集団活動、自然活動は人の心を耕す。新居浜を知る、自然を学ぶ、人の関わりを学ぶことは素晴らしいと思う。実施状況をきかせて欲しい。』という宇野委員さんのご質問についてお答えします。新居浜子ども環境キャンプは、別子銅山の歴史を学び、別子山の雄大な自然に触れながら、環境をテーマに集団活動を行うことにより、郷土への誇りや愛情をもっていただきたいと企画したもので、8月5日(木)から8日(日)の3泊4日の日程で実施され、小学校5年生から中学校2年生までの39名が参加いたしました。一班5、6名で7班を編成し、初日のオリエンテーションで班長を決めたあと、期間中は班ごとに行動いたしました。</p> <p>主な内容ですが、初日5日の鉱物採集では、別子山公民館近くの川で、愛媛大学の高橋教授や佐野教授から別子山で採れる石の説明を受けたあと、自分たちで石を探し、先生にその石の種類を診てもらったり、先生がハンマーで割ってくれた珍しい石をガラスケースに入れてもらったりしました。子どもたちは、我こそは珍しい石を見つけないとばかりに次から次へ石を探し、先生に持って行って診てもらっては、一喜一憂しておりました。その後、水面を這うように石を投げる、石投げ遊びを体験いたしました。その夜、天体観測の予定でしたが、雨天のため、公民館の室内でパソコンにてリアルタイムの松山市の夜空をプロジェクターに写し出し、この時期に見える星座の勉強をいたしました。6日翌朝ですが、昆虫採集では、総合科学博物館の大西学芸員さんの指導で、前日までに仕掛けをしていたものを見に行きました。雨の影響で、収穫はありませんでしたが、近所の方がカブト虫のつがいを捕まえてくれたものを観察し、公民館に戻ったあと、学芸員さんが持ってこられていた標本で四国地方にいる珍しい昆虫について学びました。次に植物観察では、別子山支所の神野 祐子さんの指導で、リスがかじったあとがまるで海老フライのような形になっている松ぼっくりがあることを教えていただいて、それらを探したり、また木に聴診器をあてて木が水を吸い上げる音を聞いたりしました。7日、住友林業フォレストサービスによる企業の環境保全活動についてということで、住友林業が別子の山々に100年がかりで植林していることについて、フォレスターハウス円型ホールにて、模型や展示パネルを見ながらお話していただきました。その後、旧別子山地区登山研修を新居浜南高等学校情報科学部のみなさんの案内で実施いたしました。登山時には、4班体制で各班1名ずつ南高生がつき、資料片手に丁寧にわかりやすく説明してくれました。その後、帰途に</p>
-------------------	---

	<p>ついたのですが、終了したのち子どもたちから感想文やしおりの提出をしていただいております、そのなかから感想文をひとつだけご紹介したいと思います。小学校5年生男子の作文です。</p> <p>＜作文を朗読＞</p> <p>いろいろな感想文が提出されており、子どもたちのその時々のお持ちがよくわかります。以上です。</p>
伊藤学校給食課長	<p>学校給食課です。宇野委員さんからのご質問ですが、V-3学校給食の充実 ②学校給食だより等を配布し、食を通して「体の健康と心の健康」を推進するという項目から『子どもたちの感想や意見を聞き、生かしているのでしょうか。』というご質問でございます。中学校におきましては、生徒に対しまして2年に1回アンケート調査を行っております。そのなかに出てきました子どもたちの感想や意見を集約いたしまして、次年度の献立またはメニュー等にできる範囲内で反映させております。また、小学校においては各学校の児童の意見が配られますが、その上でバイキング給食等のメニューに生かしております。それを踏まえ、安全・安心でおいしい栄養のある給食づくりに努めております。以上です。</p>
太田委員長	<p>はい。ありがとうございました。丁寧に質問に答えていただきありがとうございます。質問された委員さん方よろしいでしょうか。</p>
三木委員、宇野委員	<p>はい。ありがとうございました。</p>
太田委員長	<p>その他に報告ありませんか。</p>
高橋事務局長	<p>先ほど、教育委員会の取組方針の説明をいたしました。これで7月末現在の進捗状況ということでホームページに掲載させていただきますので、よろしく申し上げます。</p>
太田委員長	<p>他の報告事項はありませんか。</p>
阿部教育長	<p>はい。四国中学校総合体育大会の資料をご覧ください。先ほどの教育長報告で、全国大会に出場する子どもの報告はいたしましたが、四国大会に参加した子どものすべての記録になります。お目通しをお願いします。</p> <p>次に平成22年度「小・中学生子ども会議」からの提言という資料をご覧ください。新居浜市教育委員会の公式ホームページにもこちらを掲載しました。子どもたちのなかから【自分たちにできること】【学校・先生に望むこと】【家庭・保護者に望むこと】というかたちで話</p>

	<p>し合いを行いました。そして、この内容について関係のある人に知らせしてほしいという要望が教育委員会にありましたので、ホームページに掲載し、新居浜市内の保護者にも教育関係者にも子どもたちの願いとして真剣に読んでほしいと思います。その時に、新居浜出身の高見知佳さんの読み聞かせを行いました。一昨年、郷土出身のいろんな活躍をしている人から、体験談等を聞きたいというような要望がありましたので、小学生向けに高見 知佳さんの読み聞かせを今年度実施していきたいということで、子ども会議で1回目を実施しました。10月から11月にかけて、または1月から2月にかけて新居浜市内10校程度、中学校は希望があれば実施していきたいと思います。そして、先ほども報告いたしました但中学生用に陸上のトップアスリート事業を実施しております。子ども会議から出てきた意見を大事にしていきたいと思っています。</p> <p>次に、みらいへ・・・という資料についてですが、教育長報告でも言いましたが8月19日から29日まで郷土美術館で開催しておりました『誇りある郷土「新居浜発見物語」展』で掲示しておりました資料を中心にまとめていただきました。教育委員さんの住まれている校区の特色等は頭に入っていると思われませんが、参考までに新居浜の他の地区にはどのようなものがあるか見ていただきたいと思います。</p> <p>毎月報告しておりました生徒指導関係についてですが、7月までは8月に報告したかと思えます。夏休み中でしたので、9月の報告はありません。また、不審者情報につきましても、8月はありませんでしたので、文書はございません。ご理解お願いいたします。</p> <p>発達支援課からお知らせになります。こども発達支援センターの開所式を10月1日(金)11時から開催したいと考えております。教育委員さんには、改めてご連絡をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。</p> <p>委員のみなさん予定をお願いします。 その他にありませんか。</p> <p>はい。学校教育課ホームページ掲載の平成22年度 全国学力・学習状況調査結果の資料をお配りしております。資料を基にご説明させていただきます。</p> <p>実施日及び結果が示された日についてございますが、平成22年度全国学力・学習状況調査は、4月20日に実施され、7月30日に結果が返却されました。参加該当児童・生徒は、新居浜市では調査対象となる小学6年生、中学3年生の在籍する小学校16校の1,162名、中学校11校の1,083名が調査に参加いたしました。実施内</p>
曾我発達支援課長	
太田委員長	
秋本次長	

容につきまして、学力については、小学校は国語と算数、中学校は国語と数学の2教科で、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」に関するB問題を実施いたしました。また、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を併せて行いました。

結果の分析・考察について、小学校国語の国語A（主として知識）についての問題ですが、全国（公立）の平均正答率をやや下回っている。評価の観点から見て、「関心・意欲・態度」は高い一方、「話す・聞く能力」について課題が見られる。国語B（主として活用）について、全国（公立）の平均正答率を下回っており、評価の観点から見て、「書く能力」に比して、「関心・意欲・態度」・「話す・聞く能力」・「読む能力」・「知識・理解・技能」に課題が見られる。経年比較において、「活用」に関する問題は、「知識」に関する問題よりも平均正答率が低く、引き続き基礎的・基本的な知識・技能の習得と併せて、それらを活用・応用する力を養う必要がある。度数分布の結果から、国語A、国語Bとも中位以下の学力を示す児童の割合が全国に対して高く、特に国語Bについて顕著である。中位以下の児童に焦点を当てた授業改善とともに、低位の児童についての個別の指導・支援を継続して行う必要がある。小学校算数の算数A（主として知識）・算数B（主として活用）について、全国の平均正答率をやや下回っております。評価の観点において、主として「数量や図形についての知識・理解」について課題が見られる。度数分布の結果から、算数A、算数Bとも中位以下の学力を示す割合が高く、特に算数Bについて顕著である。中位以下の児童に焦点を当てた授業改善とともに、低位の児童についての個別の指導・支援を継続して行う必要がある。次に中学校国語の国語A（主として知識）について、全国の平均正答率をやや下回っている。国語B（主として活用）について、「話す・聞く能力」は高いが、「関心・意欲・態度」・「書く能力」・「読む能力」について課題が見られる。度数分布の結果から、国語Aについて全国とほぼ同様の傾向を示している。国語Bについて、上位の生徒がやや少なく、中位、下位がやや多い傾向がみられる。中学校数学の数学A（主として知識）・数学B（主として活用）ともに全国の平均正答率を上回っている。評価の観点からみると、特に「数学的な見方や考え方」が高い。度数分布を見ると、全国に比して数学A、数学Bともに上位の学力を示す生徒の割合がやや高い。数学Aについて、低位の学力を示す生徒の割合がやや高く、二極化している傾向がみられる。低位の学力を示す生徒について、個別の指導・支援の充実を図る必要がある。

学習状況の調査について、質問紙調査結果の分析・考察ということですが、「学校の決まりを守る」について小・中ともに全国に対してやや高くなっており、経年変化において改善がみられます。小・中学

校ともに、「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」と回答した児童・生徒の割合が高く、経年変化においても高い傾向があり、授業改善に向けた取組が進んでいると見ることができます。「学校の宿題」をしている児童・生徒の割合は高く、特に中学生において高い割合を示しているが、「家で復習する」、「家で苦手教科の勉強」、「休業日の勉強時間」について、引き続き課題がある。「家で予習をする」については、小・中ともに経年変化において改善がみられ、特に中学生において全国に比して高くなっているが、小学生においてやや低いという傾向があります。「長文を読むのは難しい」と感じている児童の割合は高く、生徒の割合は全国とほぼ同じ傾向である。「原稿用紙2、3枚の感想文や説明文を書くのは難しい」と感じている児童の割合は高く、生徒においてもやや高い。学力と学習習慣、生活習慣との相関関係は非常に高いので、今後も継続して家庭・地域・学校の連携を深め、基本的な学習習慣づくり（学習規律の徹底・学力を支える「読み・書き・計算」の定着）、家庭での学習の充実、生活習慣の確立に取り組む必要がある。

市の取組の分析と評価についてですが、全国学力・学習状況調査等の結果により、授業改善の一端が見られるものの、全体として平成20年度以降、各学校の共通の課題としてきた「家庭学習の時間を増やす」「児童・生徒への個別の支援」の必要性は昨年度と同様明確であり、継続していく必要がある。6月に実施した市教科研修会においては、小・中学校連携の視点により、各学校1割の教員が交流参加を行いました。また、研究授業では、授業評価システム等を用いた工夫を行いました。今後も維持する必要がある。そして、小・中校長会、研修主任会等において、本年度の取組・学力向上プランについて周知を図った。全国学力・学習状況調査及び県学力診断調査後の各校における取組の状況について、確認の調査を行っていきます。

具体的改善方策ですが、共通課題として「家庭学習の時間を増やす」について、経年変化により「授業の復習」、「授業の予習」、「授業以外の勉強時間」について改善されてきた。しかしながら、全国と比較すると「休業日の勉強時間」、「家で苦手教科の勉強」の数値は下回っておりますので、単に宿題に取り組むだけでなく児童・生徒が、目的意識を持って自ら進んで家庭学習に取り組む姿勢を身に付けることが必要である。学校・教師として、①課題の与え方の工夫 ②予習・復習・自主的学習についての肯定的評価、称揚の必要性がある。また、保護者へ実態を周知するとともに、学校としての取組について家庭と連携を強化する必要があると考えております。「児童・生徒への個別の支援」については、中位、低位の児童・生徒に焦点を当てた授業改善を図る必要がある。また、低位の児童・生徒について教師が実態を把握するとともに個別の指導・支援を継続する必要がある。

	<p>明日、臨時校長会で、新居浜市全体としてこのように取り組んで欲しいという共通課題1「家庭学習の充実」この家庭学習の与え方について各学校で検討してほしいということと「児童・生徒への個別の支援」をよりいっそう充実していく必要があるということをお願いしたいと思っております。同じように家庭へも協力をお願いしたいと思っております。</p>
<p>太田委員長</p>	<p>はい。例年以上に詳しく説明いただいて、ショックも受けているのですが、ご質問等ございますか。</p>
<p>阿部教育長</p>	<p>学力テストが始まったのが、平成19年度からで今年度が4回目となります。平成19年度小学校で試験を受けた子どもが、平成22年度中学校で試験を受けたということになります。今年からは特に小学6年生で受けた子どもがどのような学習状況だったかについて経年変化の理解ができるのではないかと考えております。</p> <p>平成19年当時は、4月にテストを行い11月に結果が出たと思いますので、平成22年度の結果は、ほぼ中学校1年、2年の学習状況の成果として出てきているのではないかと思います。数学、特に活用においては大幅に上昇しており、中学校の数学教師の取組、算数から数学に変わる際の授業改善がうまくいったのではないかと思います。このあたりを各学校でどう捉えていくのか、また、教育委員会としても考えなければいけないと思います。</p> <p>小学校のときに国語と算数だけでなく、つまずいたものがそのまま中学校でもつまずいたまま修復されることなく進んだ教科と修復された教科があるのではないかと。中学校教師のフォローの仕方ということになってくると、小学校のときに基礎・基本として教えるべきことをきちんと小学校教師がつかみ、6年生のときにできていなかったことについては中学校教師へ連絡し、中学校教師が弱点をつかんで、中学1年、2年で指導していく。そういう一人の子どもについて把握をしていくことが大事だと思います。小・中学校の連携、9ヵ年で子どもの成長を見ていくということで、子どもの情報が学習面でも伝わっていないといけないと思います。弱点のところは弱点のまま補強されることなく進むということがあるのではないかと。国語は小学校から中学校へ上がったときに十分なフォローができていなかったのではないかと。算数・数学については、弱点が把握しやすいので、フォローがしやすい、国語はなかなか把握しにくいというような教科の特性はあるのですが、そのところを見極めて把握していくことが、学力の向上、授業改善に繋がっていくのではないかと。思います。</p> <p>学習状況の調査で、ここまでしないといけないのか疑問に感じますが、保育所・幼稚園に通ったかどうかの質問があります。幼稚園に通</p>

<p>太田委員長</p>	<p>った方が保育園に通ったよりも理解度が高いという結果が出ています。</p> <p>正答率の数字に一喜一憂するのもどうかと思うのですが、例年はここまで大きな差はなかったように思われるのですが、国語Bなどは大幅に差がついてしまっていると思います。これは、先生方にもどういふことで正答率が下がってきたのかについて検討してもらったりするのでしょうか。</p>
<p>阿部教育長</p>	<p>それは、弱点の部分になりますのでそれについては、各学校で検討してもらわないといけないと思っております。ただ、得点だけのことを言えば、国語については、平成21年度は問題数が多く時間がなくて全部回答できなかったという意見が多くありました。今年度は問題数が少なくなっておりますが、算数・数学は昨年よりも難しく量が多かったということもありますので、点数が違うということは大きな問題とは思っておりません。ただ、全国平均との差の違いについては、各学校で取り組んでもらう方向でいきます。</p>
<p>宇野委員</p>	<p>数字ばかりを言うてはいけないとは思いますが、数字を見ると非常にわかりやすいですね。各学校においては、自分たちの学校の実態というものを深刻に考えてもらわなければいけないと思います。例えば、中学校の数学は非常に良い成績が出ているということは、中学校の数学の先生は、数学的なもの見方の指導がきちんとできているということだと思います。活用能力が高いということだから、数学の先生の指導力は良いということだけれども、国語の指導はもう少し頑張ってもらわないといけないと言えると思います。</p>
<p>太田委員長</p>	<p>先生の指導力もあると思いますが、教科書の違いで差がつくということは考えられるのでしょうか。</p>
<p>阿部教育長</p>	<p>教科書で差が出るということはないと思います。学習指導要領に基づいて、出版社が作成し、文部科学省が認めているものになりますので。新居浜市は全国でも多く使用されている教科書を選んでおります。数字で一喜一憂ということもありますが、全国平均とそれほど大きな差がなければ、なんとかなるのではないかと思います。さすがに大幅に違うとなると、先生方にも考えてもらわないといけなくなると思います。</p>
<p>太田委員長</p>	<p>今年度は厳しい結果が出ていますね。</p>

秋本次長	各学校で自分の学校と全国平均を比較すれば、自分の学校がどうであるか一目瞭然でわかります。それを見て各学校がどう捉えるかが大切だと思います。
阿部教育長	学習態度と結果は比例して読み取ることができると思います。
宇野委員	学力向上することも成せばなるということですね。
阿部教育長	教師の取組方によって、意識の持ち方で違ってくるのではないかと思います。
秋本次長	8月に教頭研修会や教務主任研修会において、確かな学力の定着に向けてどう取り組んでいくかということで、各学校の実践を発表していただきました。学校によって、10分間のドリル学習を取り入れているというような具体的な取組が出されました。ある学校では、先生方全員研究授業をして、授業力を高めるというような発表もされましたので、十分、先生方はどのような取組をしていけばいいのか、参考になるような意見を聞くことができましたので、今後考えていただけるのではないかと思います。
太田委員長	この結果を見て、文部科学省からこのような対策をとりなさいというような指導はあるのですか。
阿部教育長	各学校で結果を見て、反省し、対策を講じていかなければならないということです。
宇野委員	環境教育にこだわっているとか、研究授業を一生懸命やっているとか、やる気で学校教育活動に取り組んでいるところは、良い結果だと思います。
太田委員長	よろしいでしょうか。その他、何かありませんでしょうか。それでは、図書館からお願いします。
坂本図書館長	図書館から、新居浜市立図書館運営懇談会委員の募集についてお知らせします。委員の任期が、今年度9月末日で切れるために今回募集をいたします。市民のみなさんから図書館の運営に関するご意見、ご提案を幅広くお聞きし、図書館サービスに反映させるために、市内在住で本市のほかの審議会委員についていない20歳以上の人を2名募集いたします。任期につきましては、平成22年10月1日から2年間です。募集方法につきましては、図書館で申込用紙を配布したり、

<p>太田委員長</p>	<p>ホームページに掲載したりしております。郵送、電子メールも可です。なお、応募締切日は9月16日（木）になっております。図書館を利用されている方、図書館に興味を持っておられる方等いらっしゃいましたら、お声がけをよろしくお願いいたします。</p> <p>また、図書館要覧の冊子もお配りしておりますが、34ページにも新居浜市立図書館運営懇談会設置要綱も掲載しておりますので、お目通してください。図書館要覧につきましては、利用状況等も掲載しておりますので、お目通しいただいたらと思います。以上です。</p> <p>その他、連絡事項等ありますでしょうか。</p> <p>他になれば、次回の定例会の開催日を決めさせていただきたいと思います。</p> <p>10月の定例会は10月7日木曜日16時00分より開催させていただきます。それでは、平成22年第9回教育委員会定例会を一度閉会いたします。ありがとうございました。</p> <p><以下、非公開にて審議></p> <p>新居浜市教育委員会会議規則第54条の規定により署名する。</p> <p>委員名</p> <p>委員名</p>
--------------	--